

昭和 55 年春季講演大会 ポスターセッションに参加して

近 江 宗 一*

本年度のポスターセッションは、4月4日、5日の2日間にわたって毎日4時間ずつで延べ8時間実施され、内容としては、4日が製鋼7件、鋼性質8件、5日が製鉄6件、加工6件、合計27件の研究成果が発表されました。私は製鉄関係の発表当事者であり、聴き手でもありました関係上、5月の午前中をこの会場で過ごしましたので、少し思いついたことなどを述べてみます。

会場は、一テーマについて2時間が割当てられていましたが、発表者の意欲も全般的に極めて充実しており、いろいろのくふうをこらしてビラや実物を展示し、熱のこもった説明が行われていました。また来場者も多数にのぼり、時間をかけてずいぶん細部にわたる質疑をしておられました。したがってたいへんに実りの多かつた行事であると思っております。

そもそも学会における一般の講演発表というものは、できるだけ聴衆にわかるようにくふうして話すことが大事な事項であると思いますが、それがなかなかうまく行われないところにもう一つあきたくない面があります。このことがうまく実現されるためには、会場設営者は、それなりの細かい配慮をしなければならないのは当然ですが、講演者が前もって十分話し方まで研究して演壇に立つことが必要です。このことは口で言うのは容易ですが、考えれば、話し言葉の選択、話す速度、発音、間合のとり方など、相当にデリケートな技術があつて、特に若い人達にはむずかしい問題が多いことになる

でしょう。とすれば、普通の講演会で聴衆の理解度を向上させることは、しよせん無理な注文かも知れません。

ポスターセッションはこの点を十分補っています。昨年のアンケートの結果でも、わかりやすくて好ましいというご意見が76%もありました。講演会場では不可能な細かい議論や、デリケートな問題の話し合いが、時間の制限もなくできるということは、話し手、聴き手双方にとつてたいへん有益なことになります。そこで、もう少し考えてもよいのではないかと思うことがあります。現状では、連係のよくとれている研究者仲間の間ではあまり問題がないでしょうが、一般の参加者にとつては、十分の説明が聞けないようなこともあるようで、説明する方もたびたびの繰り返しで話にくい時もあるようです。このことは、例えば講演者が2時間の中で1~2回交互に説明する時間帯を設けて、時刻表を発表しておくなどの方法をとれば緩和されると思います。またなるべく会場を広くとつて、一コマの間口を広くしておくことも、多数の参加者に徹底するようにすることと、隣同志の干渉を少なくする点で望ましいでしょう。実施にあたっては、限られた日程と限られた会場の範囲で計画しなければなりませんから、いろいろむずかしい事態が現れるでしょう。それ相応の配慮はされているかと思いますが、いま一つくふうが加えられますと、なお一層喜ばれるものとなるでしょう。

安 本 俊 治**

昨年の第一回ポスターセッションは、ちょうど興味のある講演と発表時間が重なつたために参加できませんでしたので、今回初めてポスターセッションというものを体験しました。

ポスターセッションについての案内書を一読した限りでは、発表時間が正味2時間あるというのは非常に長いと思いました。しかし実際に発表してみると、多くの人にくり返して説明しているうちに、いつのまにか終わってしまったというのが正直な印象です。

今回ポスターセッションに参加して感じたことあるいは希望等を2、3述べたいと思います。

1) 展示スペースは現状で十分と思いますが、ポスターを展示する壁面が三面になつているために、5人程度の人数で前が一杯になつてしまいます。展示方式は平面的な配置として、多数の人が一度に見られるようにした方がよいと思います。

2) ポスターの書き方について、その細部は発表者に一任されています。スライドと同程度の内容のポスターを発表したが、ポスターの場合には内容的に図・表のみでなく、簡単な説明文も同時に記入した方が内容を容易に説明できてよいと思いました。

3) 事前に作成したポスターを展示することで、参加者と質疑応答を行うが、それを容易にする上で、事前に質問事項の整理ができたらいよいと思いました。これにより、十分な討議が行えるように事前に準備することができ、発表時間を有効に活用できると思います。

最後に、ポスターセッションという企画は、発表者と参加者とが互いに納得できるまで討議ができる場であり、問題点の指摘とその解決方法に何らの示唆が与えられるという点で非常に有意義であります。今後も大いに拡大・発展されることを期待いたします。

* 大阪大学工学部教授 工博

** 川崎製鉄(株)水島製鉄所